

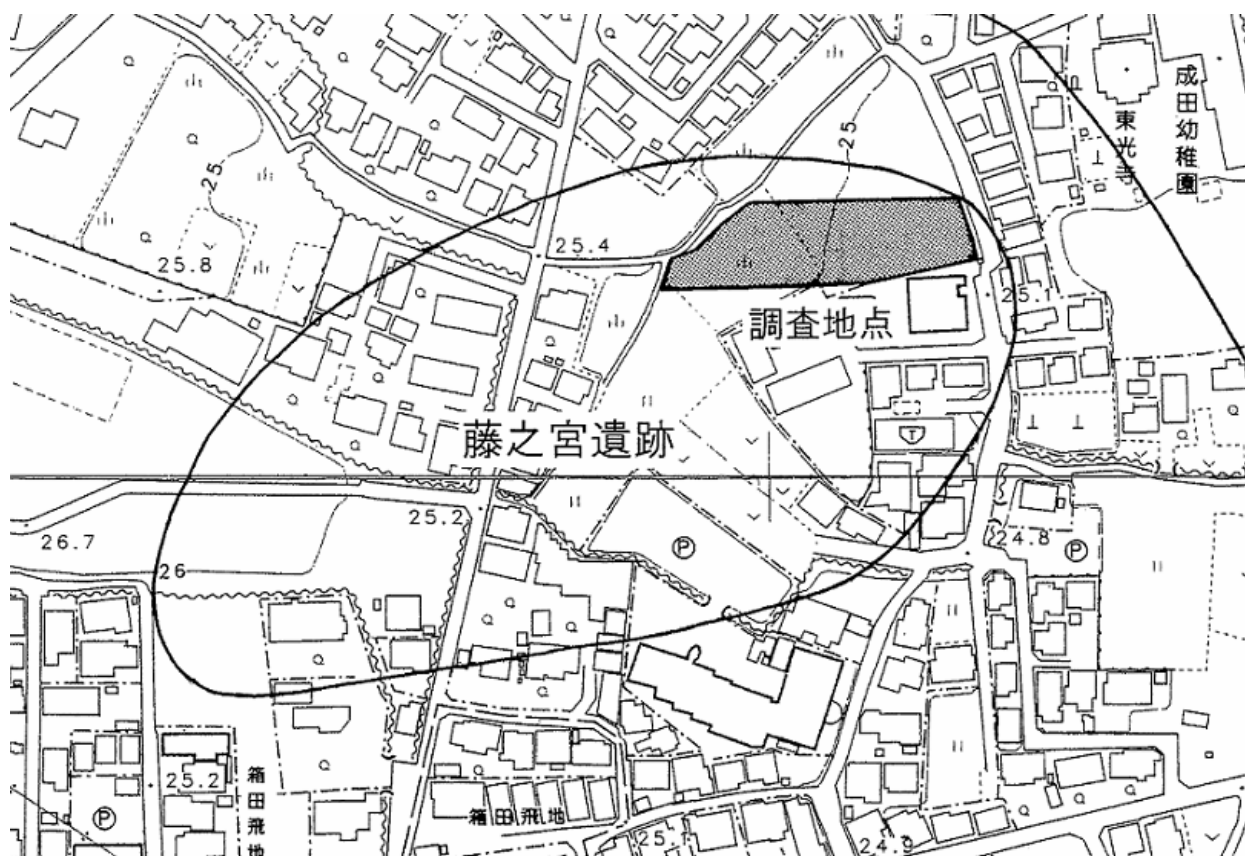
わが街熊谷遺跡めぐり 藤之宮遺跡

1. はじめに

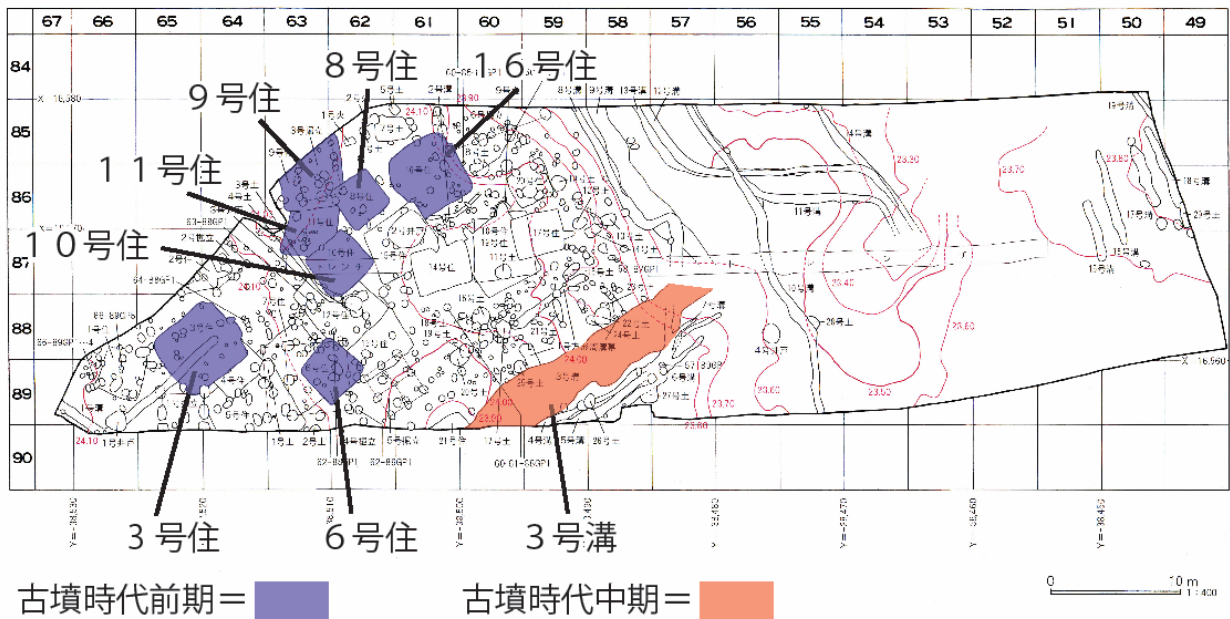
藤之宮遺跡は、熊谷市東部の上之に所在します。遺跡は、新荒川扇状地末端の自然堤防上標高約 25m 前後に立地し、東西約 270m、南北 130m の範囲に広がっています。

発掘調査は、区画整理事業に伴い、平成 14 年度に行われました。調査が行われたのは遺跡範囲の北東部にあたり、面積は 1,907.29 m² です（第 1 図）。調査の結果、遺跡からは弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世まで長期間にわたって人々が暮らした痕跡がたくさん見つかりました。

数ある資料のうち、今回の展示では、古墳時代の前期（約 1,600 年前）と中期（約 1,500 年前）の遺構・遺物についてご紹介いたします（第 2 図）。



第1図 藤之宮遺跡の範囲と調査地点



2. 古墳時代前期の遺構・遺物について

古墳時代前期の遺構は、^{たてあなじゆうきよあと} 竪穴住居跡7軒です。調査区西側に軸を揃えて分布しており、4軒の住居跡（8～10号住居跡）は重複していたことから若干の時期差を持つことが明らかとなっています。いずれの住居跡も後世に^{こうせい}掘られた遺構と重複していたため、残存状態の良好なものは多くありませんが、方形に掘り込まれた住居内からは^ろ炉や柱穴、^{ちよそうけつ}貯蔵穴などが見つかりました。遺物は完形のもの少数ですが、貯蔵用の^{はしきつぼ}土師器壺、煮炊き用の土師器^{かめ}甕などたくさんの土器が各住居跡から出土しました。



古墳時代前期の竪穴住居跡(左が3号、右が6号住居跡)

古墳時代前期の土器



土師器 壺



土師器 台付甕 だいつきかめ



土師器 高坏 たかつき



土師器 広口壺 ひろくちつぼ



土師器 器台 きだい



土師器 小型丸底土器 こがたまるぞこどき

3. 古墳時代中期の遺構・遺物について

古墳時代中期の遺構は、3号溝跡のみですが、溝跡中層からは良好な土器がまとまって出土しました。これらの土器は、ほぼ完形であることから^{はいき}廃棄されたものではなく、また意図的に^{あな}孔をあけた^{わん}椀やお供え用の高坏なども存在することから、溝がある程度埋まった段階で何らかの^{さいしぎれい}祭祀儀礼を行った際に使用されたと考えられます。



古墳時代中期 3号溝跡遺物出土状況

古墳時代中期の土器

3号溝跡出土土器には、土師器甕^{かめ}、

高坏^{たかつき}、台付碗^{だいつきわん}、碗^{わん}、甑^{こしき}など多くの種類がありますが、このうち最も多いのは高坏です。これらの土器は、その特徴から古墳時代中期でも新しい段階に位置付けられます。



土師器 甕



土師器 高坏



土師器 高坏

土師器 台付碗^{だいつきわん}



土師器 碗^{わん}

土師器 甑^{こしき}

平成24年10月15日発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）

— わが街熊谷遺跡めぐり — 藤之宮遺跡 テーマ展解説書 第13集